

林業の労働安全

一般社団法人 林業技能教育研究所
所長 飛田京子

自己紹介（林技研 所長 飛田京子）

1979 福岡県大牟田市生まれ

2013 工学院大学工学部建築学科卒

2004-2013 **民間企業で、施工・安全管理に従事**
専門分野：
食品医薬品などの製造設備
自動車等のエンジン開発装置の導入

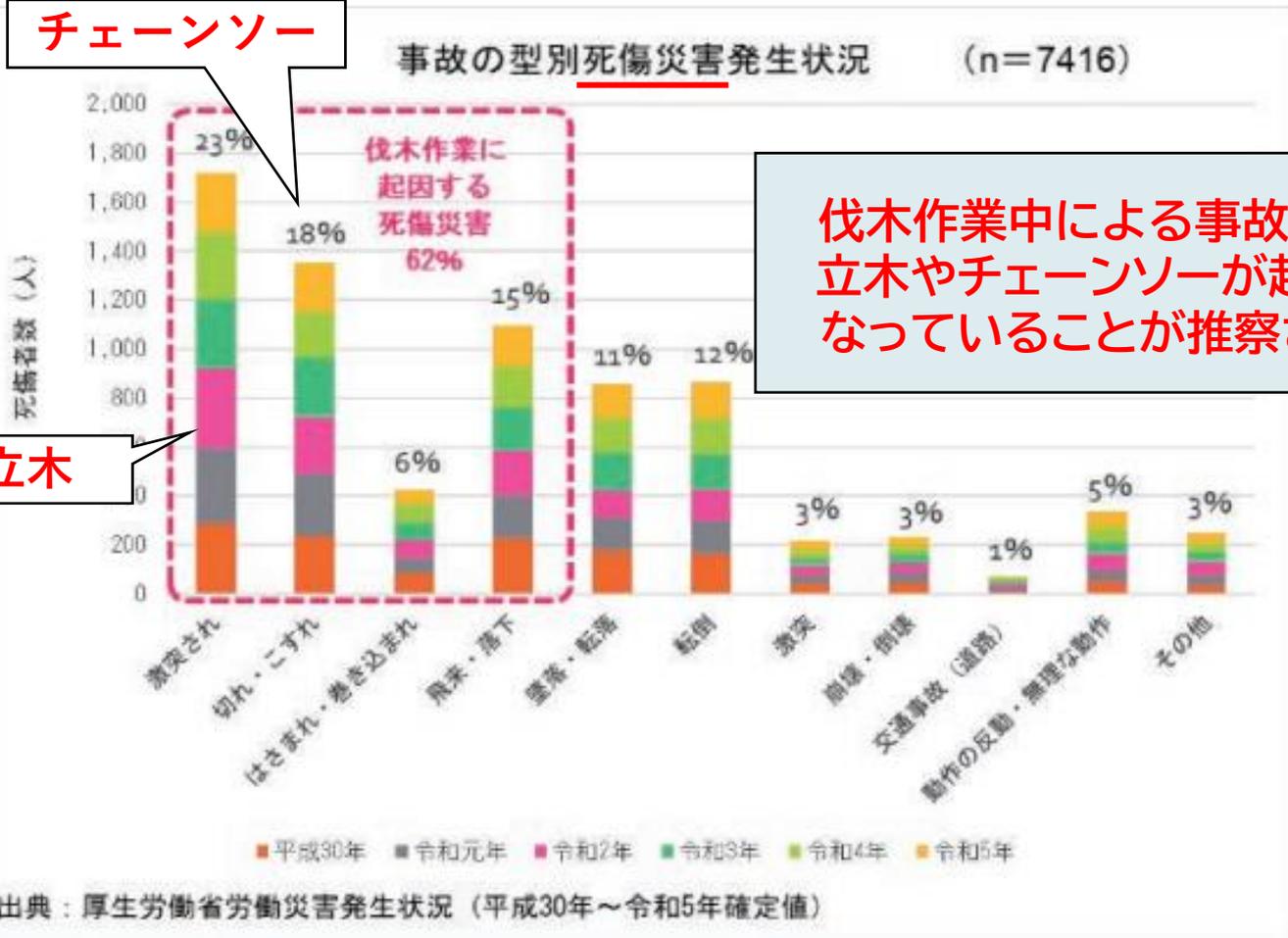


2014.4 東京大学大学院農学生命科学研究科
森林科学専攻 修士課程 入学
研究テーマ：チェーンソーの技能教育

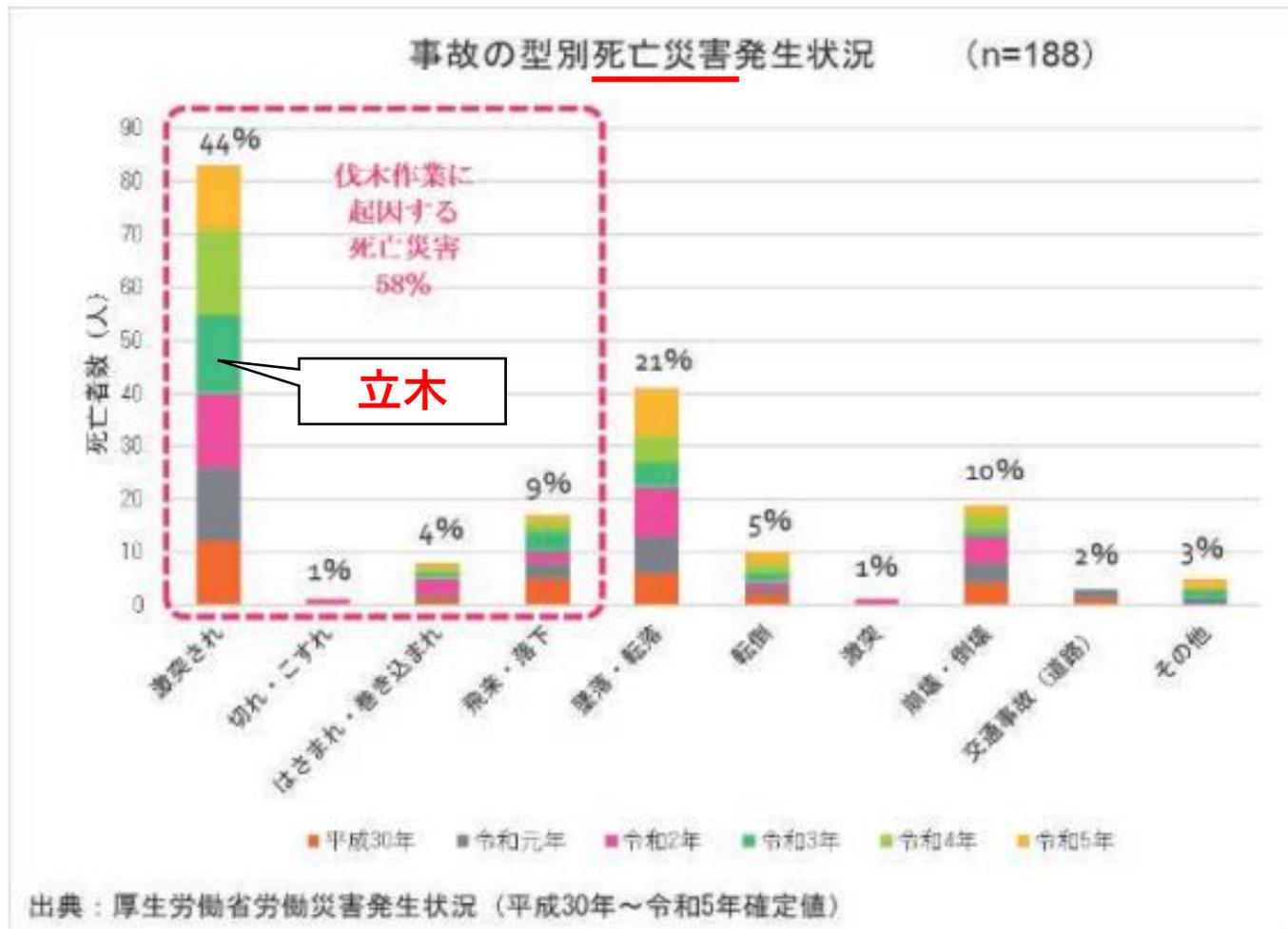


2019.3 博士号(農学)取得
.4 鳥取市に移住
東京大学大学院農学生命科学研究科
農学特定研究員
研究、チェーンソーに関する講師、
教育プログラムのコンサルティング、専門誌執筆
など実施

2020.2 一般社団法人林業技能教育研究所 設立
(略称：林技研)



伐木作業中による事故が多く、立木やチェーンソーが起因物となっていることが推察される。



死亡事故

チェーンソーによる人力伐倒(自己伐倒)が最多
53.8%(令和元年～5年)

林業・木材製造業労働災害防止協会 (2025)
林業・木材製造業労働災害防止協会Webサイト (<https://www.rinsaibou.or.jp/>)

事故の型別 死傷災害

「激突され」が最多、次いで「切れ・こすれ」 (平成30年～令和5年)
立木 チェーンソー

事故の型別 死亡災害

「激突され」最多 (平成30年～令和5年)
立木

立木とチェーンソーは林業の労働災害防止対策において
最も注目すべき危険有害要因である。

安全化の基本

「本質安全」

(機械の) 危険源を取り除く
または人に危害を与えない程度に低減しようとする

「停止」

機械の作動を止めて安全を確保しようとする

「隔離」

人と機械が存在する場所を分離して安全を確保しようとする

安全化の基本の観点から見た林業

伐木作業の危険有害要因
安全化の基本的対策が困難

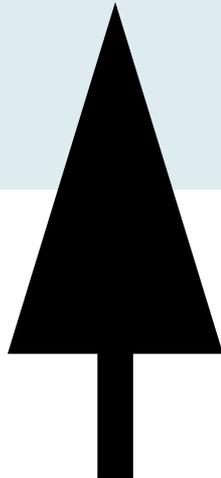


(作業の機械化 ×)
作業者を危険有害要因から
隔離できない

本質安全 ×
停止 ×

本質安全 △
停止 ×

危険有害要因



立木



チェーンソー

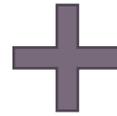
隔離 ×



人

安全化の基本の観点から見た林業

伐木作業の危険有害要因
安全化の基本的対策が困難

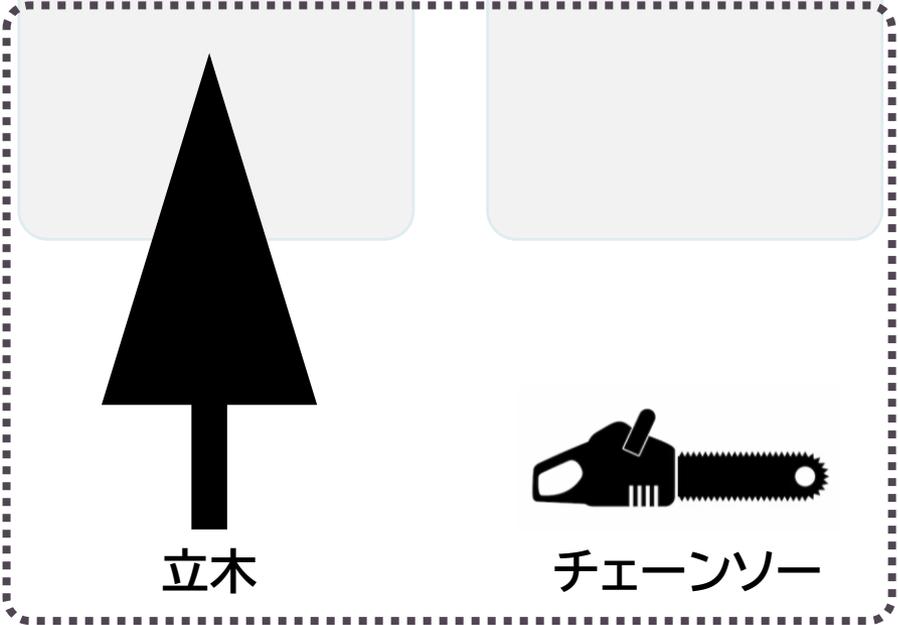


(作業の機械化 ×)
作業者を危険有害要因から
隔離できない

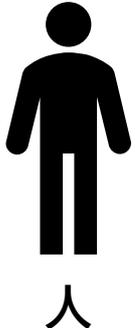
本質安全 ×
停止 ×
危険有害要因

本質安全 △
停止 ×

作業者がリスクを生まない
危険有害要因との接し方
を学ぶことが重要

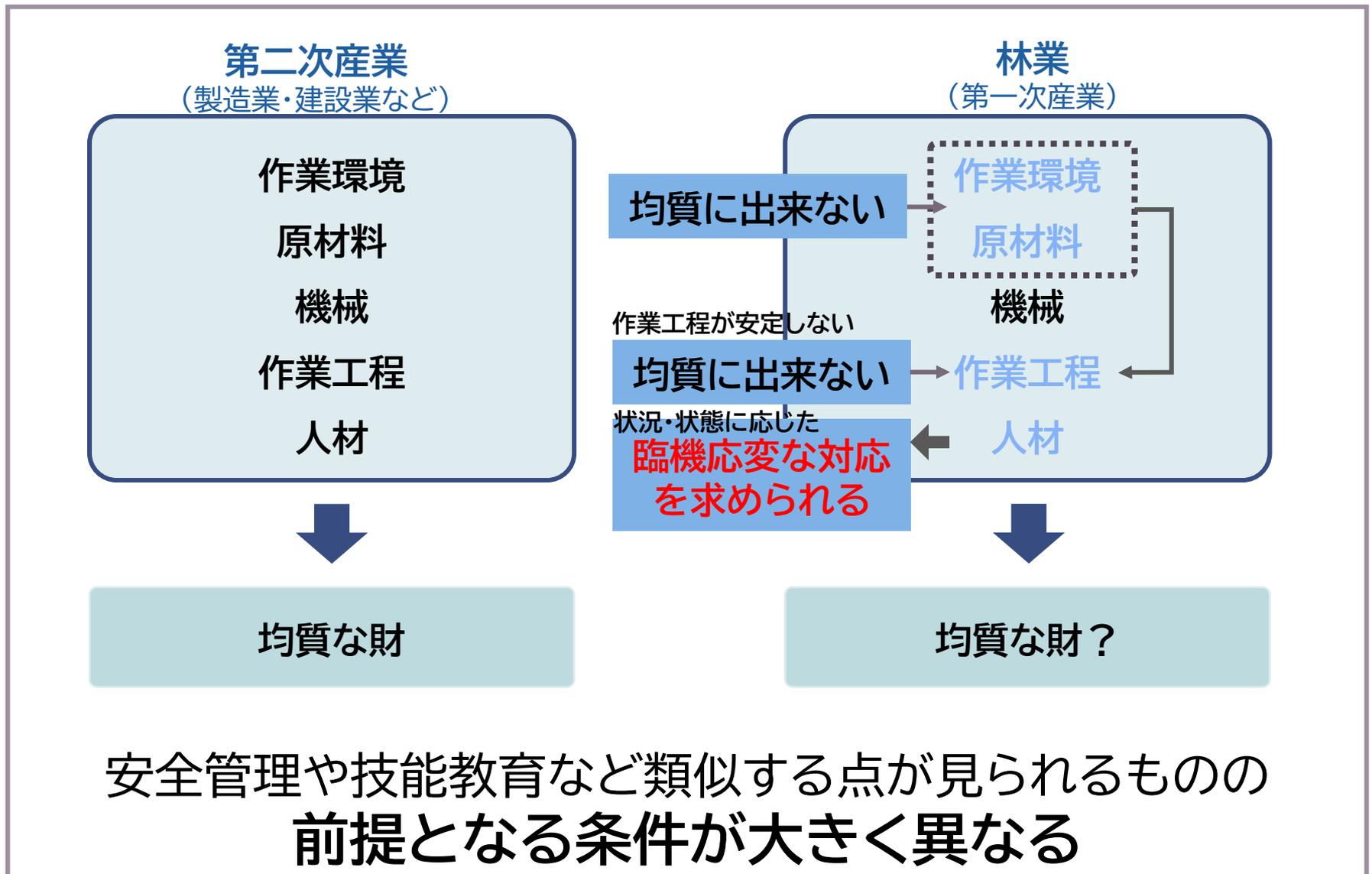


隔離 ×



人

林業と均質性



事故が多い伐倒作業では
今も尚、安全化の基本が遂行されていません。

林業という生業の分類と実情の違いは
労働安全の確保や人材育成に大きく影響しています。

林業は、**第二次産業の手法を踏襲するだけでは**
これらの課題を克服することは難しいと考えています。

だからこそ林業の労働安全では、
人を良く知り

人に焦点を当てた対策がとても大切だと日々感じています。

林業の現場で働く人

林業の現場で働く人＝職人タイプの人が多い

察して行動することを好む(自分⇔他者)
＝“目端が利く”ことが評価される



同じRタイプ同士

＝察する力により言語を介さずに一定の連携が取れる

職人タイプ



R(現実的興味領域)
に対する興味関心高い

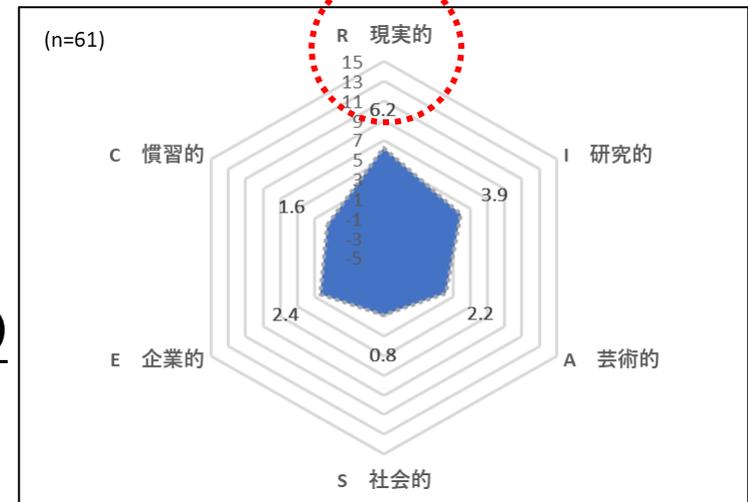
Rタイプ同士の指導

先輩→自分の背中を見せる

新人→その背中から大切なことを

学び取る(察する)

“親方の背中を見て学ぶ”手法での
指導が成立していた



林業の現場で働く人

林業の現場で働く人＝協調性が高い

興味関心＝行動のきっかけが何であるか

性格特性＝行動への取り組み態度

S(社会的興味領域)低

＝他者との交流や支援が行動のきっかけにはならない

協調性高い

＝関わることになった相手との関係を大切にする

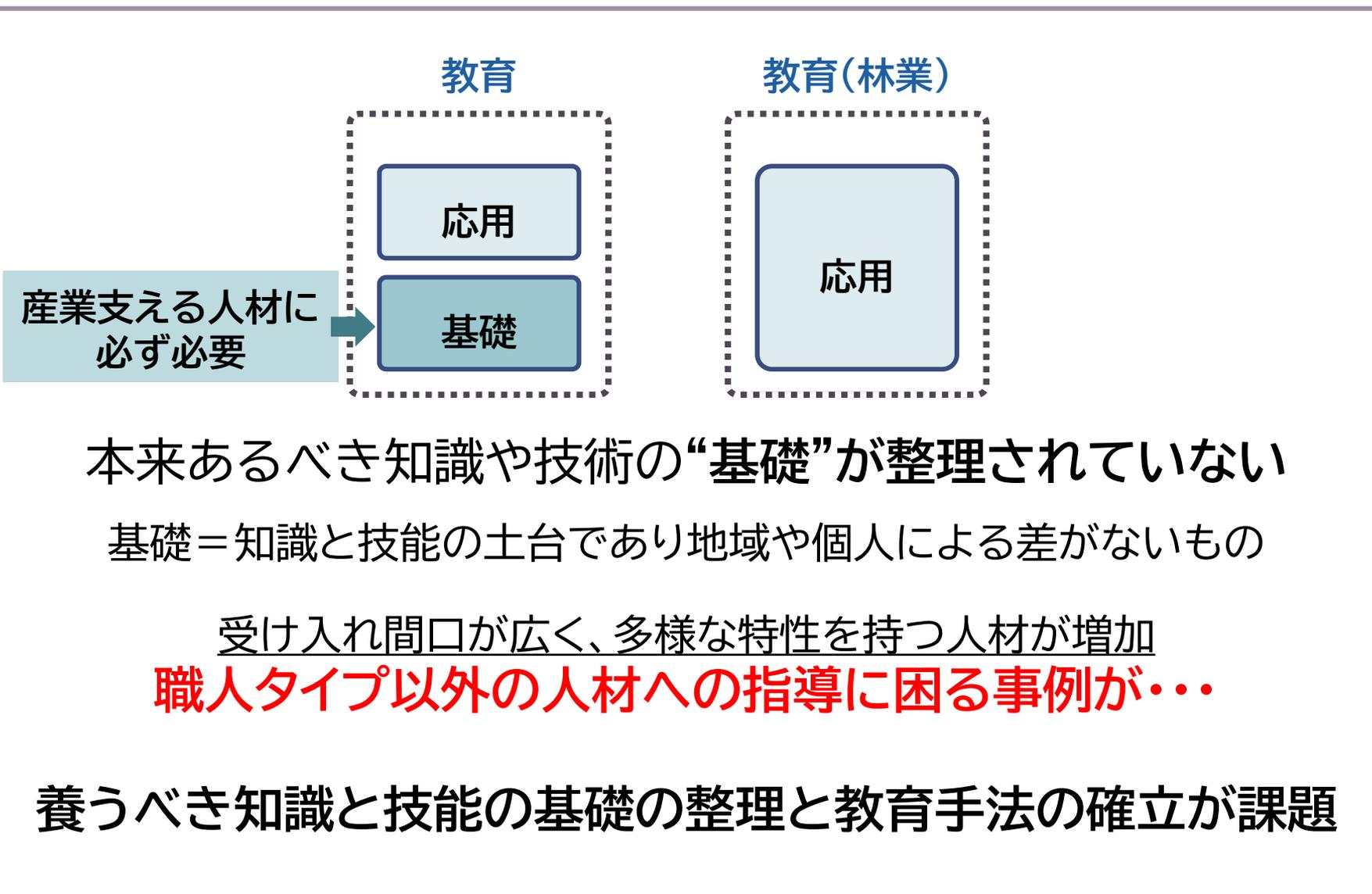
ビッグファイブ理論による性格特性の分類

| | |
|-------|-----------------|
| 外向性 | 社交性や活動的な性格を示す。 |
| 協調性 | 共感や協力の度合いを示す。 |
| 誠実性 | 責任感や自己管理の程度を表す。 |
| 神経症傾向 | 感情の安定性を示す。 |
| 開放性 | 創造性や知的好奇心を示す。 |

労働安全は職場における 労働者の安全と健康を確保するためにある

取組の対象となる労働者(作業者)の特性が知られていない

これまでに積み重ねられてきた知識や手法を
大切にしながらも
守るべき対象に適した形に整えていくことが不可欠



基礎教育（見立て）

知的能力(見立て)

認知

判断

身体能力

操作

見立ての基礎教育の課題

現場で安全に大勢を指導するのは困難

同じ指導環境を再現できない

天候に左右される

基礎の整理が出来ていない



おわりに

理想と現実の間を埋める対策

理想とする状況に至るために
今何をしなければいけないのか

働く人達のことをよく知り、対話することで
一步一步確実に前進するための対策を
実行することが必要です。